

序文

教養文化研究所所長 井 上 久 士

今年は長年本学のために尽力されてきた多くの先生方とお別れしなければならない。すなわち天野武男先生・太田隆士先生・廣野行雄先生・本間邦雄先生・星川熙先生である。本号は上記の先生方の退職記念号である。

天野先生は長年情熱をもって英語を教えるとともに新約聖書におけるパウロ書簡などキリスト教の研究に大きな成果を上げられてこられた。天野先生ご自身も敬虔なクリスチャンとしてその温厚なお人柄により学内だけでなく地域社会からも親しまれてきた。

太田隆士先生は本学開学以来本学のドイツ語教育に尽力され、学内でも多くの要職をになってこられた。語学だけでなくヨーロッパの歴史・文化・芸術を深く研究され、多くの業績を残された。

廣野行雄先生は本学開学以来本学の中国語教育を支え、また2015年度まで教養文化研究所の所長として本研究所を率いてこられた。廣野先生は魯迅をはじめとする近代中国文学を深く研究され、現代中国文学と思想について多くの業績を残された。

本間邦雄先生は本学開学以来本学のフランス語教育を支え、また現代文化学部長をはじめ要職をになってこられた。語学だけでなくフランス文化と思想について深く研究され多くの業績を積みあげてこられた。

星川熙先生は本学開学以来本学の自然科学教育の中心をにない、またメディアセンター長をはじめ多くの要職を歴任された。深い研究と幅広い視野から社会科学や人文科学を学ぶ学生に自然科学をわかりやすく教授していただいた。

五人の先生方への送別文は、各先生をよくご存じの先生に執筆いただいた。順に高垣行男先生、明石真和先生、長尾建先生、増田久美子先生、狐塚賢一郎先生である。

一度に多くの先生方とお別れするの非常に心残りではあるが、学問研究に終わりはないのでそれぞれの先生は自由になった時間を使って今後さらなる研究を続けていかれると確信している。先生方の変わらぬご健康をお祈りする。